

奈良県総合医療センター
薬剤師の新人研修プログラム

✔ 薬剤部の理念

病院機構の理念に基づき安全かつ適正な薬物療法を確保し、良質な医療の提供を目指します。患者さんに適切で安全な薬物療法を受けていただけるよう、薬に関する様々な業務を行っています。

薬の専門家としての知識を生かし、医療チームの一員として患者さんに満足していただける医療を提供できるよう努めています。

✔ 薬剤部の目標

全病棟に薬剤師を配置して、入院時あるいは手術予定が決まった時から退院まで、薬剤師が患者さんの薬物療法に関わり、入院中はもちろん退院時にも服薬指導を実施します。

外来患者のハイリスクな薬物療法に積極的に関わります。

薬・薬連携を推進し、地域における安全な薬物療法に貢献します。

1. オリエンテーション(初日～1週間)

✔ 病院の概要と薬剤部の役割

- 病院の理念・診療科の紹介
- 薬剤部の役割(調剤・病棟・DI業務など)
- 他職種(医師・看護師・臨床検査技師など)との連携

✔ 基本的なルール・マナー

- 服装・身だしなみ・言葉遣い
- 医療安全・個人情報保護(インシデント・コンプライアンス)
- 勤務体制・シフト・残業ルール

✔ 病院薬剤師の基本業務

- 調剤室・薬品倉庫の案内
- 院内ルール(カルテの見方、電子薬歴の使い方)
- 医薬品の保管・管理(冷所保存、麻薬・向精神薬の管理)

2. 調剤業務の習得(1週間～4ヶ月)

✓ 処方箋の読み方

- 病院処方箋の特徴(院外・院内処方の違い)
- 一般名処方・配合変化・TDM(Therapeutic Drug Monitoring)

✓ 調剤業務の流れ

1. 処方箋監査(疑義照会の基準)
2. 医薬品のピックアップ・計数調剤(内服・外用・注射剤など)
3. 無菌調製(抗がん剤調製・高カロリー輸液調製)
4. 監査・ダブルチェックの実施
5. 服薬指導の基本(患者対応のポイント)

✓ 医薬品管理と安全対策

- 内服・外用・注射剤の管理
- 毒薬・劇薬・向精神薬・麻薬の管理
- 使用期限・返品・廃棄のルール
- 高リスク薬の管理と安全対策(ヒヤリ・ハット報告)

3. 病棟業務の基礎(1年～2年)

✓ 病棟業務の基本

- カルテの読み方(電子カルテ・検査値の確認)
- 病棟カンファレンスの参加(チーム医療)
- 医薬品の投与設計と用量調節(腎機能・肝機能による調節)

✔ 服薬指導の実践

- 入院患者への服薬指導(自己管理の指導)
- 副作用モニタリング・アドヒアランス向上策
- 認知症・小児・高齢者への対応方法
- 手術室及び集中治療室等における薬学的管理

✔ 注射薬の管理と無菌調製

- 注射薬の配合変化・混注の可否
- 抗がん剤の調製手順と安全管理(レジメン鑑査を含む)
- TPN(中心静脈栄養)の基礎

4. 医薬品情報(DI)業務と医療安全(6ヶ月～)

✔ 医薬品情報の収集・提供

- DI業務の基礎(添付文書・インタビューフォームの活用)
- 薬剤師の情報提供義務(患者・医療スタッフへの情報共有)
- 最新の医薬品情報の取得方法(PMDA、製薬会社の情報活用)

✔ 医療安全対策

- 医療事故防止(投薬ミス・アナフィラキシー対応)
- インシデント報告の仕組みと重要性
- 抗菌薬適正使用支援(AST: Antimicrobial Stewardship Team)

✔ TDM(治療薬物モニタリング)

- TDMの必要な薬剤(バンコマイシン、テオフィリン、フェニトインなど)
- 薬物血中濃度の測定・投与設計の基礎

5. チーム医療への参画(1年～)

✔ チーム医療の役割と連携

- 多職種カンファレンスへの参加
- ICU・緩和ケア・糖尿病指導チームのサポート
- 在宅医療(訪問薬剤管理指導)の基礎知識

✔ 専門薬剤師・認定薬剤師を目指すための学習

- がん薬物療法認定薬剤師
- 感染制御認定薬剤師
- 糖尿病療養指導士 など

✔ 研究・学会発表の準備

- 症例報告・学会発表の基礎
- 医学論文の読み方・データの活用

6. 定期評価とフィードバック(6ヶ月～1年)

✔ OJT(On-the-Job Training)

- 先輩薬剤師・指導薬剤師(チューター)による評価・指導
- ケーススタディ・ロールプレイによる実践的トレーニング

✔ 個別フィードバックとスキルアップ計画

- 業務習熟度のチェック(チェックリストを活用)
- 強化すべき分野の特定と学習計画の作成

✔ キャリアアップと学習支援

- eラーニング・研修会の活用
- 専門薬剤師・認定薬剤師等へのステップアップ